昭和31年3月1日　三隅広報　（第29号）

三隅広報

町民親切運動……お互立場をかえて親切にし合いましょう……挨拶をし合いましょう……三隅町民一同

発行所　三隅町広報委員会
発行人　稲田正治
編集人　三原祥祐

喜びと希望にもえる

若きむね　小さき胸

小中學校の卒業と入學も間近かに

『螢の光窓の雪…』に送られ『仰げば尊し我が師の恩…』を歌って、六年の小学校教育を終え茲に目出度各々の学窓を巣立ち行く、本年度の卒業児童生徒は、

▽中学校では　一九三名の内、進学希望者（一〇五）就職希望者（三一）家事従事者（五七）となり、来る三月十九日卒業式。

▽小学校では　一八一名の内、宗頭小（三二）明倫（一一二）浅田小（三七）卒業式は明倫（二十日）浅田（二十一日）宗頭（二十二日）に決定

× × ×

又来る四月新学期と共に指折り数えて待ちに待っていた小学校入学生は、宗頭（三九）明倫（一四七）浅田（五七）計二四三名が一年生として胸ふくらし、各小学校の校門をはいる事になっている。

中学校えは前記の各小学校からの者を合して一八一名が入学、義務教育最後の段階に踏入れることになる「入学」「卒業」子をもつ親にとって、それは何と晴れやかな、そして喜ばしさに満ちた言葉であろう。むつきの世話の頃から這えば立て、立てば歩めと、いつくしみ育てて来た我が子が意なく生長し迎える今日、この日き章輝やく学生帽匂いも真新しい洋服、ランドセルにいでたつ我が子の姿を想起して親たるもの一しおの感激なしには居られないであろうけれども親達として、この多年の労苦が報いられた感激と喜びと同時に子供にとつても、又とない重要な、意味をもつ日であることを忘れないで、今後如何に指導すべきか即ち（一）よい性格を作るには（二）よい習慣をつけるには（三）能力を伸ばすには……を考える必要がある又進学、就職家居等各々の希望をもつ、青年期の生徒に対してもこの夢実現の為に正しい指導と援助が願いたい特に次の事項については正しい意味の愛情の眼を向けることを怠つてはならない。

（一）正しく個々を見極め長所を伸してやる（二）服装、態度言葉つかいの変化（三）うそが多くなり勉強や仕事のしぶり（四）外出が多くなり帰宅が不規則となる（五）不似合のものをもち、変な友が訪れる（六）読物が変り手紙や電話に敏感となる等々……幾多の心理的身体的変化のあることを見守つて正しい方向に導くことが親としての私共の務めではないだろうか。（三原生）

（明倫小の入学テスト風景）

俳句

一月分清風句會

遙けくも嶮しく越えて春立つ日　　斌
手に取らば消えなん白魚あはれなり　九重
立春の名ばかりとなり今日の雪　　満水
春立つと云へど遠嶺に雪残る　　一平
風凪ぎて白魚とりの舟三つ　　松風
門に貼る立春大吉白き札　　秀子
白魚の少さき鉢に日の光　　元
遠山に寒の残りて春立ちぬ　　登木
立春や人の心も春らしく　　一波
今年こそ今年こそとて二十日すぎ　　か牛庵
白魚の阿武川に映ゆ日和かな　　芳江
盧子秀句読み立春の部屋にあり　　雲仙

三月分兼題は東風、おひな様ですから一〇日迄に住所氏名俳句記入の上七句以内公民館え提出して下さい

或る日の清風翁兄弟

〈時…天保七年（百二十年前）どうだった武芸稽古事は大変盛んなようぢやが」「柳川は武芸が誠に盛な所で一般の風儀も全程良く、当萩藩では若者は用もないのに他家に遊んでは酒を飲み放言口論などなし残念な事ですが柳川では飲酒する事もなく綿服で、一寸した事も主人が手軽に手伝ひ倹約をなし武器もよきものを貯えてる風です」「うん成程女子はどうじやあ」一婦女子も服装は質素でつつましやかな風俗は質素でつつましやかな風俗は質素でつつましやかな風俗

共同學習の展開
夢と期待の青年学級

公民館だより

明るい町ずくりのための人間形成を目的として、勤労青年自らの教養をたかめ、自主的な共同学習活動として、たゆまぬ努力を続けつつある本町青年学級も早六年目の歳月を経過し、更に逞ましき勉学意欲と町及び教委の温い理解にはぐまれて伸び来つております。毎日仂いている青年が職場においてより以上科学的に理解をしたいと思うことや、日常生活にどうしたらよいか判らないで悩んでいることや更に趣味として娯楽として伸ばして行きたいと思うことについて、一年間各々の専門家について学習して行く仕組が青年学級なのであります。そこで学級は学校の様な基本的教育課程がなく、青年の希望をみんなで綜合してきめて行くものです。私達は労仂で疲労したからだにむち打つて一人で勉学するということは仲々難かしいものですが、同好の人同志が集まつて励ましあつて勉強する処に、長つづきもするし楽しくもあるし、向上も早いのです。

青年達は悩んでいる。その悩みに明快な解答を与えることはむつかしいかも知れないけれども何かの示唆を与え方向を示すことはできます。何故なれば学級は青年達のものであり、その運営は青年達の自主性にまかしているからです。希くば勤労青年が相互の温い心情と旺盛な実践の意志をもつて、青年の誇りと特異性を発揮し前途に明るい光明を見出し、悔いのない青春を過すようにしましょう。

終りにこれらの青年の自主的な活動としての勉学の理解ある御協力をお願いし、慈しみの長い目で見守つて下さることを希望しております。

講師や學級生のことば
働きながら學ぼう
学級生　佐田慶典

私達の青年学級は発足以来当局の絶大なる援助と適切なる指導により、又学級生の自覚の向上により年と共に進歩向上を重ねつつある。いうまでもなく青年学級は公民館を実施機関として運営されてはいるがあくまで私達青年が主体となり、自からの手によつて自主的自発的に運営され、これまで受けて来た学校教育を基礎にして必要に応じて更に高い程度の学習を行い、生活に直結した町の生産的社会人養成えの、基本的な学習機関であるように構成されている。

本町の青年学級は他に見られぬ設備と予算とにより実施されており、これに学ぶ学級生は現在二五〇余人である。このような青年は日に〳〵成長し、真剣になり、あらゆる面について研究しつつ農村の文化建設にと日夜修業を続けている。然し反面この立派なるものではなかろうかと思う、該当年令でありながらも青年学級、青年団に入団しない人々のあることは若い者同志の最も悲しい事態であり恥ずべき事である。

青年は常に希望や夢がなくてはならない、しかもこの希望を実現すべく自から求め、自から学び、自ら見て知り聞いて知つて見識を深めて行かなくてはならない、若い青年同志一日でも早く青年学級、青年団に入学入団され打つて一丸となり団結協力し、明日の希望を夢見つつ、今日の自己完成を目指して広く知識を吸収し合理的な新農村建設に邁進しようではありませんか

昼の共同防除作業を終えて夜は机を囲んでの反省会
【青年学級の共同研究の一こま】

巣立つ若人青春を生かせ
講師　田村憲治

人生には如何ともすることの出来ぬ運命がある、中学や高校を卒業して意気揚々と夫々上級学校に進む者家庭其の他の事情で職業に就かねばならない者皆運命である、運命には逆らつてはならぬが又負けてはならぬ人生の幸不幸、成功失敗がこれで決定するものではない。天はこの人に大任を下すとき順調な境遇を与えず苦難の道を与へ賜うので ある天命に感謝し百折不撓の意気がなければならぬ。しかし人生には絶えず悪魔が狙つている。

中学高校卒業の若き身で社会の誘惑と斗うにはあまりに可憐すぎる、この若人を惑はさず正しく高き理想に導くのが青年学級である、名実共に完備した三隅青年学級に真面目に出席した青年がその後ぐんぐん伸び行く姿を見る時、本年の学校卒業生は町つくりの教育として完全な人間形式の教育として充分意義がありまた価値もあるので一人残らず、入学せられる事を心から念願して止まない。

夏柑ヤノネ貝殻虫の一齊防除を終わって

今度三隅三町連合四Hクラブと致しまして、全町に渉る夏柑ヤノネ貝殻虫の共同防除を町当局並びに夏柑生産者組合、其の他関係各位の御協力のもとに十二月二十日より一月三十一日迄四十数日の長きに亘り行い、ここにようやく終了しました。此の間雨雪にさまたげられ作業も順調に行かず、各部落で御世話を下さつた方、園主の方々には大変な御迷惑をかけた事と思ひます。

然し当初計畫を立て示した一月末迄にはどうにか終える事が出来ました事は一に前記の皆様方の協力のたまものと感謝致して居ります。又一面には「四ツのH」の旗印のもとに集まつた私達のグループの共に磨き、共に培つた、事の成果発表の機会ともなつたのです。勿論当初より自信を持つてかゝつたのでありますが、種々の難関にぶつかり幾度か挫折しそうになつたのによく励ましあつて現在の喜びをわかち得たのであります。

四Hクラブ員の
【夏柑ヤノネ貝殻虫防除かくはん作業】

これを機に四Hクラブに尚一層の理解と御協力をたまわり三隅町全般から見ても現在農業関係の総収入の一割五分を越える有利な夏柑を栽培面積も拡張し併せ品質向上を目ざして進みたいと張切つて居ります。

しかし防除は年一回で済むのではなく五月上旬より孵化し初めて九月下旬迄、各々二回ー三回の孵化を行ない一匹に対する孵化数は一五〇匹ー一七〇匹で平均繁殖一三〇匹で年間一匹より一一万六千九百匹となる恐るべき繁殖率を持つて居る害虫であります。これは如何にして伝染し駆除する事が出来るかと言ふ事です個人的には仲々むつかしいと思ひますが今回の様により成果を上る協同防除を行なう事に依り徹底を期したいと思ひますので今後共何分の御指導と御協力をたまわりより一層の成果を上げる事の出来ます様御願ひ致します。

（四Hク会長山根幸助）

（一面より續く）

様でないと同じ労力をつかい同じ経費を使つて実施時期のおくれで効果が少くなくなつてはいけませんから今すぐに実施致しませう。

10年間の獄中生活
モンゴルより歸りて
もみの木　増田琢雄

異国での十年間の獄中生活を離れて、日夜待望の郷土に帰りつき、古里の山河に包擁せられて、その郷土愛の情念はやる方無くひしと身にせまる。祖先の血と血、魂と魂とが相結ばれ、相連ねられ、くり広げられて今日まで持続せられて来た偉大な生命の脈打つ郷土。せゝらぎの音に、音も無く降る雨痛に、或は夜半の松らいにき哦の山容に、先人の声をしのび、叱た激励の声を姿をしのぶ。

無惨な時代の変化の中にあつても、今猶変り無き郷土人の情愛の中にあつて変化せられつつある郷土の姿

それは流れ行く偉大な生命の一齣としての現代人の血と涙と魂とによつて営まれて行く。顧はくば幾十百年の後代にあつて我が子孫が郷土の歴史を繙くにあたり「よくぞ我が祖先よ」と先人をたたべつつ敬虔の頭を垂れ郷土の山河に接し得る様、明るく正しい郷土建設の努力が酬ひ得らるゝ様努力せねばならぬ。

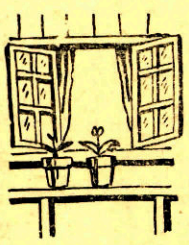
おのずから横しまに降る雨はあらじ

風こそ夜半の窓をうつらめいづれの人の歌か今思い出されて味ふべきである。

郷土なつかしや

義務教育九年を卒えて
三隅中三年　中本肇

だんだんと卒業の日が近づくにつれて
わたしは思う
「この三ケ年間
何を学んできたか」を。
中学校を卒業すれば
お前も、もう一人前だ。
本当のことは何か？
正しいことは何か？
自分で判断がつくようにならなければならないと。
正しそうにみえて
正しくないもの
本当らしくみえて
うそのもの
こういうことが世の中には
たくさんある。
毎日の新聞に、
大人の話の中に
わたしたちはあまりにも
たくさんそれを聞く。
どうすることが正しいか
困つたり、迷つたり
分らなくなつた時に、
わたしたちには
相談する友達がある。
みんなでしらべ
みんなで考え
みんなで良い方法をみつける
仲間われもせず
仲間はずれもなく、
手をとりあつて
みんなで仲よく研究してゆく
三隅中という
大きな屋根の下で
共にすごした三ケ年で、
わたしはそれを学んだ。
六百人の生涯の良き友と、
いつも正しい生き方を
教えて下さつた諸先生に、
わたしは心から感謝する。



中學の入學を間近にして
宗頭校六年　尾崎チエ子

小学六ケ年を終えて、中学へ入学する事を思うとむねが高なり、夜、ねどこに入つて目をつむつていてもみんなと楽しくなかよく勉強している事がまぶたにうかんできます今までは分校があつたのに、今年から全部本校にかようようになるのも何となく、うれしいのです。今まで習つた事もない英語や、その他いろいろな新しい教科書を手にして中学に入学する。そんな事を思つていると、何かしらお母さんのお手伝も「はい」と気持ちよく出来るのです。お母さんは「中学へ入学すると、又たくさんお金がいる」といつてふきげんな顔をされますが、私はそんな事を気にしないで「お母さん、むだづかいはしませんよ」とほがらかに話すのです。

早く、中学の入学式がくればいいなあと、いつも私の小さなむねの中は希望と喜びで波うつています。

淺田校　師井信孝

寒かつた冬もやがて去り楽しい桜のさく季節がおとづれようとしています。

長い六ケ年を終つてやがて、希望の第一歩、あこがれの中学校に進みゆく日がまぢかです。今までならつた事も今一度よく考え直してゆかねばとつづく思います。

中学校から高等学校とだんだんむつかしくなるさうですが先生の日ごろの御教えや、自分の勉強ぶりが今更のように反省されます。

希望にむねをふくらませて、中学校へ入学するころは、学校の桜もきれいに、さいていることでしょう。

その花に負ぬよう美しい人になりたいと一生けん命勉強するつもりです。